

(公社)落語芸術協会 理事
落語家・真打

桂 小文治 氏

テーマ 落語の世界

- 開催校 八戸市立吹上小学校
- 日 時 令和6年11月22日 10:10~11:05
- 参加者 2年生 103名



START

桂さん登場！



児童たちの大きな拍手に迎えられて登場した桂さん。
早速、自己紹介と落語について説明が始まりました。

落語とは？



落語とは高座に座り、右や左を向いて人物や情景を表し笑いをとることで、みんながよく知る漫才などとは違いがあることをお話します。



右や左を向くといっても、上手と下手というルールに沿う必要があったり、下手には花道という長い廊下が用意され「外」を意味していたり。

落語の難しい決まりがあることをゆっくり丁寧に説明していきます。

表現方法を学ぼう



続いては表現方法について。話すときの声のトーンやスピードを工夫するだけで、あらゆる場面や人物を表現できるそうです。

遠くにいる人を呼ぶとき、単純に大きい声を出すのではなく、「やーーーーーい！」と長く伸ばすと、なんと遠くに話しかけているように聞こえてきます。

次に人物の表現。優しくゆっくり話すとおじいさんおばあさんの声、声のトーンを上げ鼻に掛けるように話すと小さいこどもに、声のトーンをうんと上げて鼻に掛けると今度は女性の変身します。

桂さんから次々と出てくる変幻自在な表現に児童からも大盛り上がりでした。

「ダジャレ」が軸の小噺を披露！



表現方法について学んだところで高座に座った桂さん。落語といえば長いお話が印象的ですが、小噺というごく短いお話もあることを説明。

小噺とは、いわゆるダジャレを生かした面白おかしいお話のことで、何個か披露くださいました。聞いたことのあるダジャレでも、桂さんの多彩な表現が合わさり、思わず笑ってしまいます。児童からは度々笑い声やツッコミが聞こえていました。

昔からある物語や動物を題材にした小噺もあるそう。

物語なら鶴の恩返しやはなさかじいさん、動物なら猿やオウムの話等、自分のよく知る題材とダジャレを組み合わせた展開の読めないお話に思わず聞き入ってしまいます。

落語の小道具を紹介！



落語では、話術だけでなく、小道具と音も使って表現するそう。
落語でよく使われる小道具の扇子と手ぬぐいを紹介します。

小道具を使ったあらゆるものの表現と、よりリアルに見せるためのポイントを
1つ1つ実演しながら紹介していきます。

扇子の表現



盃（さかずき）

扇子を開きお酒を
飲み干す表現



そろばん

玉のぶつかり合う音を
鳴らしながら



お箸

箸に見立てて
おそばを食べます

てぬぐいの表現



本

表情で
悲しい本を表現



本

続いて難しい本



焼き芋

食べ方でホクホク感を
表現します

落語を觀賞しよう！



ここで落語を一席披露！
古典落語の演目の1つ「転失気」です。

たくさんの登場人物を、表情や声色を巧みに操
りながら表現します。



気になるのは転失気の正体。

児童は正体は何なのか登場人物の会話から想像しながら、集中して落語の世界に入り込んでいました。



落語も終盤に。

ついに明かされた転失気の正体は…

なんと「おなら」！



まさかの正体と、次々とつながっていくこれまでの展開に、児童からは笑いが止まりません！

大盛り上がりの中、転失気が終了。

見事な一席に最後は大きな拍手が送られました。

落語やってみたい人！



ここで、ハエの小唄または本の表現のどちらかを児童にも挑戦してもらうことに！

挑戦者を募ると、3人の児童が手を挙げてくれました。



見事な表現です！



思わず笑いがこぼれます



とても難しそうな本
のようです

質問タイム



Q.
いつから落語を始めたんですか？

A.
大学の落語研究会に入ったのをきっかけに、
大学4年生から修行を始めました。



Q.
どうやって落語を覚えていますか？

A.
勉強と同じで、何度も何度も繰り返してやる
ことで、少しずつ頭に入ってきます。



Q.
落語家は何人くらいいるんですか？

A.
大阪で400～500人くらい、東京で800人くら
いはいると思います。

桂さん、ご講演ありがとうございました！

参加者全員で、桂さんへお礼の挨拶をしてセミナーは終了しました。



END